

伝えたい 残したい

20世紀 のうしく

問 文化芸術課(中央生涯学習センター内) ☎871-2301

牛久駅

昭和45年1月頃撮影
神谷在住 内田氏所蔵



この写真は、昭和45年1月頃に撮影された牛久駅の2、3番線プラットホームの様子です。このプラットホームは、常磐線上り列車の乗降用であり、中央の建物は待合室として使用されていました。

当時の駅舎は、木造平屋で改札口は西口のみになりました。昭和59年、駅の橋上化に伴い駅舎が新築される際に、翌年からの常磐線上野〜土浦間の15両編成化(それまでは12両編成)に対応するため、プラットホームも約60m延長されました。



明治・大正・昭和の

「昔のうしく」の写真を募集しています。



牛久の巨樹

問 都市計画課 ☎内線2522

井ノ岡町浄妙寺のイチヨウ



浄妙寺は奥野生涯学習センター前の道路を東へ向って坂を下り、左折して乙戸川を渡り、井ノ岡集落へ登った最初の角を右折した所です。境内には「市民の木」が3本あり、この木は「No.21」で、本堂の西側にあります。2006年の測定

では、幹周3・54m、樹高19・2m、最大樹冠幅は樹冠が切断されて10・3mに過ぎませんでした。これは雄木ですが、境内には雌木の巨樹もあります。病虫害に強く、火熱によく耐え、長命であるため、各地の社寺境内に植栽され、種子のギンナンは食用となります。

浄妙寺は天台宗の寺院。本堂内にある阿弥陀三尊像は市指定の文化財で、鎌倉後期の寄木作りです。

【資料提供】NPO法人うしく里山の会 樹木リサーチ(文章) : 平塚芳雄・写真: 戸塚昌宏

今回で牛久の巨樹の連載は終了します。1月1日号より新連載が始まりますのでご期待ください。

「牛久の巨樹」P116～117掲載 ※お求めは都市計画課まで(1,200円)

文芸さろん | 師走 |

神宮の森に参りし七五三
禍も福もそこそこ年詰る
含羞草乙女のように頭さげ
赤とんぼ里の案山子と戯れて
健診は女性八割にぎやかに
健康長寿此処にこそあり
子と孫とひ孫にかこまれ
愛妻と金婚祝の酒に酔う
母が言う寂しさわかる歳になり
故郷はあの夕焼けの中

ばーば
高階さん
雅子
ヒロシ
高橋さん
渡辺さん
そら

【作品募集】イラストや俳句、川柳、短歌など

【あて先】〒300-1292牛久市中央3-15-1

「広報うしく文芸さろん」係

FAX : 873-2512

E-mail : shimin@city.ushiku.ibaraki.jp

【記載事項】作品、氏名、電話番号、匿名希望の方はその旨(ペンネームもOK)